車両の適切な点検整備を実施しましょう

車の点検整備をしっかりしないと排ガスが増加するだけでなく、燃費の悪化も招きます。出かける前に、車の点検を行いましょう。

●重量チェック　積みっぱなしの荷物は、重量増を招きます。

トランクなどに荷物が積みっぱなしになっていると、その分だけ自動車が重くなってしまうため、燃費を悪化させてしまいます。例えばゴルフバッグ1個（約10kg）を積みっぱなしにしていると、1年間で約2.5リットルの燃料を無駄づかいすることになります。

ワンポイントアドバイス

走行抵抗のうち、車重が最も大きく影響するのは加速抵抗です。渋滞ではない都市内の走行などのように加減速の割合が多い走り方をした場合、荷物を載せたことにより燃料消費率の悪化への影響は大きくなります。

●空気圧チェック　タイヤの空気圧は燃費に大きく影響します。

タイヤの空気圧が適正値より約25％低い状態で走行を続けると、乗用車で年間26リットルの燃料が無駄になります。

ワンポイントアドバイス

タイヤの適正な空気圧は運転席のドアの内側や取扱説明書に書かれています。これはタイヤが冷えた状態での値です。タイヤが暖まると空気圧は0.1kgf/cm²ほど増えますので、ドライブの途中に立ち寄ったガソリンスタンドなどで空気圧を調整する時は、取扱説明書に書かれた値より0.1kgf/cm²ほど高くしましょう。ほとんどのガソリンスタンドなどでタイヤの空気圧チェックが可能です。また高速道路のサービスエリアなどでもチェックが可能です。安全走行のためにも、月に1回は空気圧をチェックしましょう。

●バッテリー・オイルの定期点検　点検をしっかりしないと排ガスが増加。

点検・整備を適切な間隔で実施することは、良好な燃費状態の維持、窒素酸化物などの排出ガスの抑制につながります。

ワンポイントアドバイス

バッテリー、エンジンオイルの早めの交換をすることは、排出ガス削減だけでなく、騒音を減らすことにもなります。また、不法改造車は排ガスの増加となりますので止めましょう

●暖気運転　寒い朝でも、暖機運転は不要です。

現在の自動車は、技術の進歩により、昔のような長時間の暖機運転の必要はありません。冬でも視界が確保される限り、すぐ走り出した方が燃費は良くなります。ただしエンジン水温計が振れるまでは、アクセルをあまり深く踏み込まないように運転しましょう。

ワンポイントアドバイス

暖機運転をせずに走り出すために大切なのは、視界の確保です。凍結しそうなときは、視界を確保するために、駐停車時に布等でウインドウガラスを覆うと効果的です。最近では霜取り効果のあるウォッシャー液やスプレーなどもありますし、こびりついた霜を掻き落とすスクレーバーも効果的です。エンジンをかける前に窓についた氷雪を掻き落とし、視界が確保できたら、ゆっくり走り出しましょう。

お問い合わせは　宮城県環境生活部環境対策課　〒980-8570　宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
Tel.022-211-2665　Fax.022-211-2696